



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL77 平成28年10月



小規模多機能型居宅介護（夜見）



サービス付き高齢者向け住宅（河崎）



地域密着型介護老人福祉施設（皆生）

新しい時代の福祉社会を切り拓く

この度真誠会は、米子市の第6期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（平成27年度から29年度）に基づき、平成28年度地域密着型サービス事業の公募に対して、地域密着型介護老人福祉施設、小規模多機能型居宅介護に応募し、認可されました。具体的には地域密着型介護老人福祉施設（30床）は皆生に、小規模多機能型居宅介護（登録定員：29名、通い：18名、泊まり6名）は夜見町（弓ヶ浜小学校の隣地）に建設することになります。平成29年4月から開所の予定で着々と計画を進めています。

また、この公募に先駆けて計画を進めていたサービス付き高齢者向け住宅ホスピタウンレジデンス（60床）を米子ホスピタウン内、介護老人保健施設ゆうとびあ（河崎）の後ろに建てることになりました。

医療法人・社会福祉法人真誠会は、設立依頼毎年のように新しい施設を開設してきました。時には二つの施設（サービス付き高齢者向け住宅「セントラルレジデンス」と、グループホーム「椿庵・桜庵」）を同時期に建てたこともあります。

しかしながら今回は規模の大きな施設を二つと、小規模の施設一つをほぼ同時に11月頃から着工し、来年3月から7月にかけて次々に完成して行きます。

これだけの建設は米子の建設業界に活気をあたえ、また新しい施設の開設に伴い各種の専門スタッフを約60人近く採用するので鳥取県西部における雇用にも貢献すると思います。

そしてすべての事業が本格的に稼動する暁には全従業員数は600人近くになり、実際に医療福祉事業と共に鳥取県西部の経済活動に好影響を与えるものと思います。

このような平面的複数拠点を中心に発展させる手法はある一つの新しい福祉事業展開のモデルと評価され、『Visionと戦略』（発行：株式会社保健・医療・福祉サービス研究会）（2016年7月号：「介護保険スタート前から地域包括ケアの原型を構築 ホスピタウンを市内に4ヶ所で運営」）で全国に紹介されました。

そして、株式会社ヘルスケア総合政策研究所が一年に一回発行する『医療経営白書』でも「地域イノベーションを生み出す病院大転換戦略」に全国の4事例の一つとして紹介されました。

この医療経営白書は、医療経営者の間では高い評価で、毎年多くの経営者が読む白書です。そのなかで紹介された事で真誠会の事業展開が一つのモデルとして高く評価されたものとおもっております。

またこれだけの規模に成長した真誠会は社会に貢献すべきことは当然のことではありますが、その規模において米子でもトップクラスとなった今、米子の医療福祉のリーダーシップがとれる、またお手本になるような事業展開、そして更にはこれからの超高齢社会における医療福祉において望まれるような福祉を展開し、新しい領域を切り開き米子の医療福祉が全国でもお手本になることの一助になればと思います。

そして同時にこれは地域創生にも女性が活躍できる社会の実現にも結びつくものと思います。



社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢



市民フォーラム 第6回 認知症 サミット 鳥取 in 米子 2016 認知症高齢者対策 これからの展開

平成 28 年 9 月 18 日 (日) 市民フォーラム 第 6 回認知症サミット鳥取 in 米子 (実行委員会主催) 米子コンベンションセンター (国際会議室) で開催されました。

地域でより良い生活が送れるよう活動の展開を探ることを目的に、認知症サミット鳥取は約 6 年前から、米子、倉吉、鳥取と巡回して開催しています。

定員 400 人の会場でしたが、台風が接近しているにも関わらず大雨のなか、約 500 人の参加があり、会場は満席。スタッフが臨時の椅子を出し対応に追われるほど熱気があり、来場者の関心の高さが伺える会でした。

詳しくは、真誠会ホームページで紹介しています。



オープニング ゴスペルオーブさんによる歌「大山賛歌」に来場者の心も癒されました



認知症サミット鳥取
西部地区会長・実行委員長
医療法人・社会福祉法人
真誠会 理事長
小田 貢

ごあいさつ

全国で認知症を患う人の数が 2025 年には 700 万人を超える推計値が発表されました。65 歳以上のうち 5 人に 1 人が罹患する計算です。今後、認知症対策の国家戦略案が公表され、認知症の人と家族が安心安全に過ごせるための対策が必要になります。地域で認知症になってもより良い生活が送れるよう活動の展開を探ることを目的に、「認知症サミット鳥取」を 6 年前から、米子、倉吉、鳥取を巡回して開催しています。サミットが、これからの地域での生き方を考え、地域で取り組みを話し合ってくださいきっかけになることを願っています。

講演

「地域包括ケアシステムとこれからの認知症対策」

医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長 小田 貢

2030 年には 65 歳以上が人口全体の 30% を超え、60 年には 40% になります。少子高齢化が進み、医療や介護など社会保障費の担い手世代の負担はどんどん増えていきます。

こうしたことから国は、従来の病院や施設で最期を迎える「施設完結型」から、在宅で最期を迎える「地域完結型」へと移行を進めています。急性期を過ぎれば退院し、大型施設で療養を終えれば、小規模多機能などの地域密着型施設に通って治す。あるいは地域でリハビリテーションを行う。そういう流れに向かっています。

「地域」の規模は、中学校区が目安です。地域には通所やリハビリ施設、グループホームがあり、開業医がいて訪問診療、訪問看護を行う。コンビニもある。高齢者が生活できるものが全てそろそろ。同時に 365 日、住民だけでなくボランティアや NPO の皆さんの目の行き届いた支えがある。

そうした体制づくりが、地域包括ケアシステムです。国は、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年に向けて地域包括ケアの構築を進めていますが、現状はまだこれからです。米子市でも、中学校区を単位に地域包括支援センターが置かれていますが、地域の問題を取り上げて多職種で相談し合う地域ケア会議の立ち上げが、まだ少ないのが現状です。地域を引っ張っていくリーダーづくりが必要ともいえます。

地域完結型のコンパクトコミュニティで大切になるのは、自発的な「自助」と、助け合い

の「互助」です。特にこれからの時代は、元気な時からの自主的な社会参加が重要です。地域を良くすることは、将来自分の老後の生活へと返ってきます。

積極的な地域への参加が、自分自身の知力、体力を活性化し、またコミュニケーションが人とのつながりを生みます。“賢”康長寿、“賢”康老人で、ぜひ地域のために頑張っていたきたいと思います。



シンポジウム

「オレンジカフェの活動報告」



真誠会オレンジカフェ6拠点
真誠会医療福祉連携センター
センター長 小山雅美氏

「オレンジカフェから 地域ケア会議へ」

「互助」を意識しながら、認知症の人と住民が気軽に集え、認知症の早期発見も目指しています。真誠会のオレンジカフェ6カ所の開設時にはセレモニーをして、地域の理解を得ることを心掛けています。地域の方と一緒に実践が大切だからです。

米子市和田町の「弓浜支え愛センター」のカフェでは、普段の会話を通して地域の困り事が見えてきたため、米子市、真誠会、地域が協力して「ショッピングリハビリ」を始めました。

米子市河崎の御建（おたて）地区では、お年寄りが何に困っているかのアンケート調査の実施につながり、毎週1回自転車で地域内を訪問する「御建地域見守り隊」が発足しました。

オレンジカフェの目的を達成するためには、地域の助け合いと団結力が必要です。地域のリーダーや自発的なボランティアの存在も欠かせないと思います。



シンポジウム風景



会場ホワイエ



ホワイエでは、各種ブースが設けられ、健康チェックが一番人気。
～血糖・血圧測定 骨密度測定

各種コーナー



「オレンジカフェコーナー」でも、久しぶりに再会できた方と会話もはずみ、トリゴネージコーヒーを試飲しながら、和気あいあい。会話もはずみ、皆さんが笑顔。

海外の福祉を学ぶ 平成 28 年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」

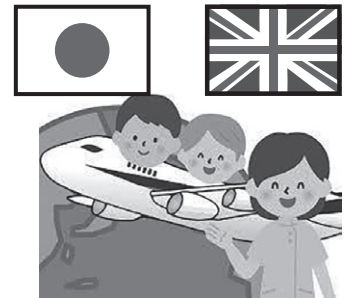


介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ
介護係長 岡田 修治

私は 10 月から内閣府の事業である、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」 高齢者分野の 9 名に選ばれ、参加させていただくことになりました。

この事業は、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し支え合う「共生社会」を、地域において築いていくためには、地域住民等による社会活動の取組の充実が必要不可欠であるという認識のもと、課題解決に向けた取組に携わる日本青年を、先進事例のある外国に派遣し、組織で活動する青年リーダーとの交流を通じて、各分野の課題対応の方策とともに、組織の運営、関係機関等との連携及び人的ネットワーク形成に当たって必要となる実務的な能力の向上を図ることを目的としています。

今回、高齢者分野は英国に派遣されることになりました。英国はボランティアや中間支援団体の活動が活発に行われており、日本でも 2025 年に向けた地域包括ケアシステムの構築には、地域住民のボランティアは欠かせない存在だと思います。英国の様々な機関を視察し、日本の制度や取り組みの良いところとも比較しながら、日本で取り入れられることを吸収し、今後の活動にいかしていきたいと思えます。



全国各地から施設見学

今年に入り平成 28 年 9 月時点で、真誠会は 11 団体、延べ 176 名の方々に視察や見学にお越しいただきました。

真誠会にいらっしゃる目的は様々ですが、最も多いのは真誠会の「地域包括ケアシステム構築への取り組み」、「地域ケア会議の実際」、「地域との連携、支え合い活動のあり方」を視察、見学されたというものです。

以前は、介護老人保健施設の見学希望が多くありましたが、最近では「地域包括ケアシステム」をキーワードとした認知症高齢者の方々に対する取り組み、助け合いの構築といった具体的な目的を持ってお越しになる方が大変多くなったことを実感しています。見学に来られた方々から貴重なご意見を頂戴しながら勉強させていただき、更により良く発展させていきたいと思っております。

視察、見学のご希望がありましたら、お気軽に連絡をお待ちしております。

真誠会本部
電話0859-24-5666
担当:前田まで



米子市民生児童委員協議会の皆様

平成 28 年来訪者

H28.2.6	鳥取県薬剤師会様	15 名
H28.2.29	富益地区社会福祉協議会評議員様	19 名
H28.3.3	一般社団法人 シルバーサービス振興会様	4 名
H28.3.24	大牟田市役所長寿社会推進課様	1 名
H28.4.18	保健・医療・福祉サービス研究会様	2 名
H28.6.9	隠岐海士町社会福祉協議会様	18 名
H28.7.2	隠岐海士町社会福祉協議会様	20 名
H28.7.8	寝屋川市民生委員児童委員様	31 名
H28.7.12	鳥取市民生児童委員協議会様	32 名
H28.7.20	医療法人賛幸会様	6 名
H28.9.1	米子市民生児童委員協議会様	28 名

「医療経営白書」に 真誠会が掲載される!

医療経営も大きな転換期を迎えています。地域の医療機関が地域医療の未来像を共有し、それに向けてどのような医療サービスを提供していくべきかを考える必要があります。

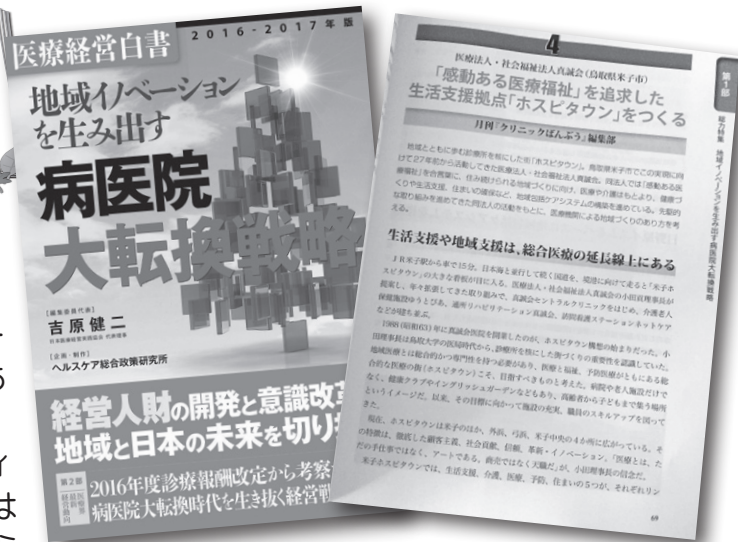
統合型医療の可能性や、コンパクトシティ構想の検討など、これまでの医療経営にはないさまざまな選択肢を模索しなければならない時代、経営人財のパラダイムシフトが求められています。

このたび、『医療経営白書』の出版にあたり、日本医療企画より連絡がありました。

テーマを「地域イノベーション」とした時点で、自院の経営だけを考えるのではなく、「地域活性化に寄与する病院の取り組み」を事例として掲載したいとの依頼があり、真誠会の取り組みが掲載されました。

以前より、ホスピタウンの取り組みを月刊誌「ばんぶう」に掲載されていた経緯もあり、今回の掲載に至りました。

多くの方にご覧いただければ幸いです。



医療経営白書 2016-2017年版 地域イノベーションを生み出す 病医院大転換戦略

- 企画・制作：ヘルスケア総合制作研究所
- 発行：株式会社日本医療企画
- 定価：5,616円(本体価格:5,200円+税)

介護力UP!!
職員の活気や活力
に繋げたい

真誠会ケアグランプリを開催

平成 28 年 9 月 9 日、第 1 回真誠会ケアグランプリ(主催：真誠会介護会)を開催しました。

介護職員、総勢 22 名が出場し「食事」「入浴」「排泄」「口腔ケア」の 4 部門に分かれ、ご利用者と関わる中で培ってきた介護の技術をコンテスト形式で披露しました。

出場した職員らは、真剣な眼差し



で技術を披露し、審査員の評価や観覧者の意見から、新たな気付きや技術向上への課題を得ることが出来ました。

この度、各部門より 1 名ずつ優秀賞を選出し表彰式が行われました。

今回のコンテストの反省を活かしながら、今後も定期的にコンテストを開催し、現状の技術に満足することなく、常に向上心を持ち続けたいと考えています。介護職員の目標やステータスとなるようなコンテストにしていきたいと思っています。

全職員が優秀賞に値するケアやサービスを提供できることを目標に切磋琢磨していきたいと思っています。



4部門「食事」「入浴」「排泄」「口腔ケア」でコンテスト
熱のこもったモデルの演技に出演者も熱が入りました

認知症対応型通所介護

真誠会4事業所

ダンスダンス けやき庵 若竹庵 童謡の里

地域運営推進会議 開催される

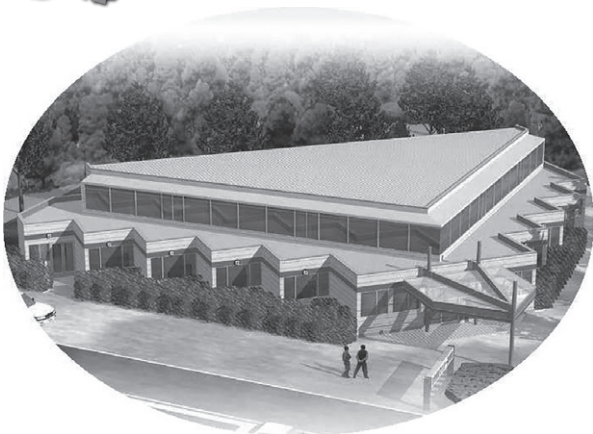
平成 28 年 4 月より、認知症のご利用者が通われる認知症対応型通所介護（ダンスダンス けやき庵 若竹庵 童謡の里）は、6ヶ月に1度、地域運営推進会議を行なうことが義務付けられました。

地域運営推進会議には、利用者の家族、市町村、地域住民の代表者（連合自治会長等）、高齢者福祉に知見を有する者（社会福祉協議会長等）の方々に、ご参加頂いております。

この会議では、私たちの活動状況を報告し、評価を受けるとともに、必要なご要望やご助言等を頂くことを目的としています。

地域の皆様から頼っていただける事業所となれるべく努力して参ります。

ダンスダンス (富益)



ダンスダンスで炭坑節

ダンスダンスでは、日頃から運動の一環としてご利用者に炭坑節を踊って頂いています。はじめは、椅子にかけたままで手振り身振りで踊られていたご利用者も今では曲が流れると椅子から立ち上がり誰よりも上手に踊られます。



今年はお盆にホールにセットを用意してご利用者、職員と一緒に盆踊りを行いました。来年は施設内にとどまらず、地域の盆踊りに参加できないかと考えています。

また、炭坑節はもちろんですが、その他の踊りも今後は取り入れて踊ることで、運動・脳活性に繋がれるよう取り組んでまいります。

けやき庵 (西福原)



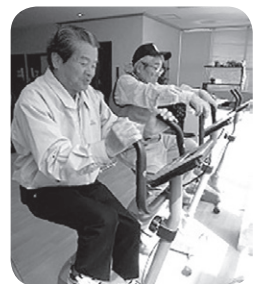
抹茶と有酸素運動にて認知症予防

けやき庵では開所当初より、認知症予防に効果があるとされている抹茶を来所時に一服飲んで頂くようにしています。抹茶に含まれるチアニンがリラクゼーション効果、認知症予防に効果があるとされています。

また、認知症予防に効果がある有酸素運動にも



まずは抹茶でリラックス



有酸素運動で元気ハツラツ

力を入れています。ご利用者お一人お一人の身体状況や、体調を考慮しながら実施しています。日々の活動もご利用者が主体的に活動できる機会を設け、職員はそばで見守り、ご利用者と共に家事活動や趣味活動、日常生活に欠かすことの出来ない動作訓練も実施しています。在宅生活の継続についても、ご家族の支援、ご相談に応じ対応させていただきます。

若竹庵 (大崎)



喜びや生きがいを持って 認知症の維持・改善を目指す

若竹庵は、認知症の維持・改善を目的に「活動と参加」について報告させて頂きました。

2015 年度介護報酬改定で「活動と参加に焦点を当てたりハビリテーションの推進」が重要項目として上げられ、真誠会でも「活動と参加」に焦点を当てたりハビリを導入しています。

一般的にはご本人と一緒に目標設定を行いますが、認知症により興味ある活動や目標が設定しづらい状

況があり、ご家族様の協力を得てセンター方式でアセスメントを行い今まで過ごされてきた生活や習慣・趣味を知り活動を行っています。

現在、3つのグループに分かれそれぞれのグループが地域に貢献できる目標を立て喜びや生きがいに繋がり、認知症の維持・改善に繋がるよう取り組んでいる報告をさせて頂きました。地域の方の多くは、若竹庵の存在を知らなかったと言われ今後、サロンや地域の活動に参加させて頂き顔馴染みの関係を築いていきたいと思ひます。



Skype を使用した理事長挨拶、
会議風景

童謡の里 (河崎)



オルゴール療法

自事業所では、取組みとして「オルゴール療法」を行っています。

オルゴール療法に効果があるといわれているシリンドー式オルゴールを用いた非薬物療法です。

オルゴールが奏でる優しい音色で癒しの空間作りを提供しており、毎朝、童謡の里に入った瞬間オルゴールの音色でお迎えをしています。

低周波・中周波・高周波をふんだんに含んだオルゴールの美しい音色を聴くことで心身を癒す効果や、脳の血流を促し自律神経を正常にする効果があります。

ご利用時にオルゴールの音色を聴いていただくことで、自律神経のバランスを整え、ご自宅に帰られてからも精神的な安らぎが継続できるよう取り組んでまいります。



「家事活動」として、料理レクを行い、そば作りに挑戦。料理後は、皆さんと一緒に片付けを行い音楽を聴きながら、普段の日常と変わらない穏やかな一日。



和田町で

介護予防と外出促進

米子市生活支援型介護予防事業「ショッピングリハビリ」

平成 28 年 8 月 9 日より、社会福祉法人真誠会が米子市から委託を受けて和田町でショッピングリハビリ（買い物支援）が始まりました！

8 月 9 日には利用者、地域のボランティアや地域の方々が集まりオープニングセレモニーが盛大に執り行われました。現在 2 回ショッピングリハビリを実施しております。

参加者の体力測定も終了して、次回より本格的に運動がはじまります。

買い物に関しては、利用者の方も大変喜ばれており、事前買い物リストを書いて持参する方も多くみられます。また店舗内をカートを使用しながらでも約 30 分程度品物を探しながら



オープニングセレモニー

歩行されております。ショッピングリハビリには、歩行能力向上、認知予防などの効果が期待できます。これからも地域のボランティアの皆様と一緒に楽しく取り組んでいきます。



理学療法士が運動や体操をします



地域の介護予防ボランティアが買い物に同行します

～ショッピングリハビリとは～

(目的)

- ① 近くにお店もなく自分一人で買い物に行けない（買い物困難者）
 - ② 最近運動不足で足腰が弱ってきたな（生活不活発病）
 - ③ なんか気分が落ち込み外出したくないな（閉じこもり）
- 上記のような高齢者の生活支援（買い物）・運動などの体力向上・引きこもり予防を目的としております。

(対象者)

65歳以上の方で、要介護1～5の認定を受けていない方。
定員20名：現在登録利用者数15名
弓浜包括支援センター職員による基本チェックリスト該当者

(内容)

- ① 弓浜支え愛センターにて、看護師による健康チェック
 - ② 弓浜支え愛センターにて、理学療法士による運動指導
 - ③ 和田介護支援ボランティア・職員と一緒にショッピングセンターにて買い物
- 平成28年8月から平成29年3月までの8ヶ月間、毎月第2,4火曜日に行います。利用に当たりましては、登録が必要になります。



真誠会通所・介護事業：「活動と参加」リハビリテーション

現在、真誠会セントラルローズガーデン（西福原）では、「活動と参加リハビリテーション（活参リハ）」として更なる生活機能の向上を重視したリハビリを行っています。

生活機能とは、①心身機能（座る、立つ、歩く等）、②活動（食事をする、排泄、着替えなど）、③参加（家庭での役割、趣味、地域での役割など）を意味しており、リハビリにおいてご本人ご家族やスタッフと共同で目標設定し、少しずつ出来ることを達成し、自己実現を目指していきます。

そのための新たな取り組みとして、iPad による「ADOC」を活用した目標の聞き取りを行っています。この「ADOC」とは、今後行っていくリハビリのゴールをご本人やご家族、スタッフと共有し、リハビリを生活の中に取り入れ、「リハビリは病院や介護施設だけであるもの」という考えから「リハビリは病院や介護施設だけでなく、家庭や地域でも行えるもの」というように、関わる人達みんなを取り組んでいくためのものです。



「ADOC」を活用した
目標の聞き取り

そのうちのリハビリの一環として、レクリエーションにおいても、ただ提供するだけでなくご本人の興味のあるメニューを選んでいただいています。書道、塗り絵、手芸、折紙、パズル、囲碁、麻雀などの多彩なメニューから自分のやりたい事を選択してもらう事で、ご本人の自己決定を促していく事に繋がるように取り組んでいます。

この、「活動と参加リハビリテーション（活参リハ）」で一人一人の生きがいや自己実現のための取組を支援し、生活の質を高め、みんなが地域で活躍できるように取り組んでいく事が大切と思います。



碁碁



書道



折紙



塗り絵



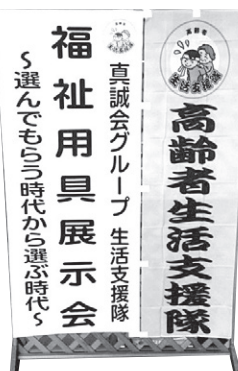
卓球

生活支援隊福祉用具展示会

～ 選んでもらう時代から選ぶ時代へ ～

平成28年7月15、16日の2日間、福祉用具関連企業43社の多大なる協力を仰ぎ、米子産業体育館にて「生活支援隊福祉用具展示会～選んでもらう時代から選ぶ時代～」を初めて開催しました。

鳥取県西部地区において最近3年間、福祉用具展示会は開催されていなく、ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士等の福祉用具に関連する皆様からの開催要望の声が多数ありました。各ブースには最新の福祉用具（介護用ベッド、マットレス、車いす、自動排泄処理装置等）が多数展示されており、2日間で約150名が来場。平均1時間、長い方で3時間近くも出展企業の担当者から熱心に商品説明を聞いておられました。また、真誠会の作業療法士によるセミナー「福祉用具を使った在宅リハビリ体験」、ユニ・チャームによるセミナー「紙おむつの選び方、使い方」も開催し、来場者の方も真剣に聞いておられました。



セミナー「排泄ケアアドバイザーによる在宅に必要なオムツの基礎知識から応用まで」



最新の福祉用具が多数展示され熱心に商品説明を聞かれる来場者

第25回 透析技術認定士認定試験 **2名合格!** 更に透析技師の技術レベルアップ

今年、5月15日に東京で開催された第25回 透析技術認定士の認定試験に透析施設 オアシスの加瀬部寛、森本達也2名の臨床工学技士が合格しました。

透析施設オアシス開設以来、長年小田院長から認定試験を受けるように勧められていましたが業務の調整がつかず受講すら出来ていないのが現状でした。

しかし今現在、臨床工学技士も3名在籍しており、透析機器のメンテナンス、血液データや透析液の水質管理など透析療法を患者様に安全に提供する為に日々努力しております。今回の合格は、透析施設オアシス開設20年目を向かえる来年に繋がるステップアップとして良い励みになりました。

また小田院長の長年の構想から、来年、米子ホスピタウンには、サービス付き高齢者向け住宅が開所します。このことにより、透析療法を受けられている独居の方は勿論、在宅から透析療法に通院することが困難な患者様でもサービス付き高齢者向け住宅に入居することで、通院も容易になり、透析後の送迎による気分不快などの症状も軽減することができるようになります。

今後も透析療法を受けられている患者様のニーズにあったサポートを透析室オアシスのみならず真誠会全体でサポートできるように連携を強化し、患者様の立場に立った医療と福祉の提供を継続していきますので宜しくお願い致します。



透析施設オアシス 主任 加瀬部 寛



透析施設オアシス 森本 達也

第3回中海緩和ケア研究会 真誠会の緩和ケアの取組みを発表



真誠会
セントラルクリニック
看護師 主任
西山美和

死の直前に結婚した事例～40歳代女性の死を受け入れられない恋人の事例を通して～

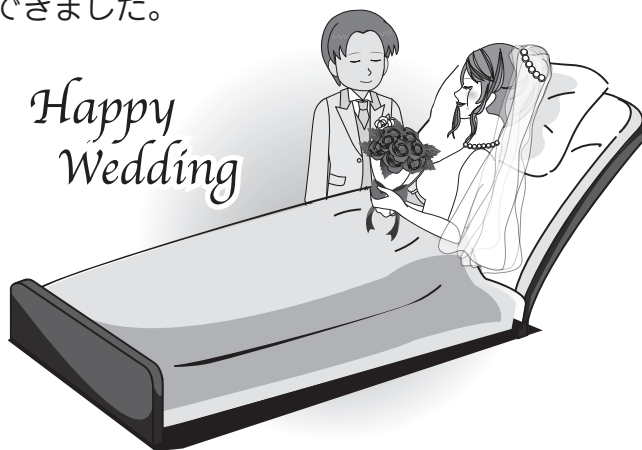
今回は「死の直前に結婚したAさんの事例」を発表させていただきました。Aさんの残された時間がわずかだと聞かされた恋人の思いを、訪室するたびに傾聴を繰り返し行いました。それが、死が受容できない恋人が婚姻届けを出したいと2人の未完の仕事に気づくことに繋がり、病室で結婚ができました。化粧を施しベールをつけ、ブーケを持って頂き看護師が立ち会いを勤めるなど演出を行ったことは、これからも残される夫にとって、一生心に残る思い出となる場面が提供できたと考えます。

死のプロセスに、残される家族の安寧を期待する為に、一生心に残る思い出づくりを真誠会の緩和ケアの特徴としていきたいです。そして日野原イズムを真髓に今後も患者様やご家族様に寄り添える看護を続けていきたいと改めて思うことができました。

【入院中の経過】

恋人の発言から、ブーケを作り、レースでベールを編み、Aさんにお化粧を施し、その場の雰囲気をつくり看護師が立ち会いとなり結婚式を挙行了した。

傾眠傾向だったAさんも覚醒し、恋人のプロポーズに「本当に？」と涙を流し「私、綺麗？」と笑顔がみられた。



真誠会
セントラルクリニック
看護師
足立真由美

クリニックにおける緩和ケアの現状と課題

当院で看取ったがん患者の遺族へ満足度を評価するためのアンケート調査を自宅へ訪問し行いました。アンケート結果より当院の緩和ケアに対して、特に「医師や看護師を信頼していた」「望んだ場所で最期を迎えられた」の項目に高い満足度が得られていることが明らかになりました。

当院は総合病院と比較して提供できる医療処置は限られるが、大学病院と連携した診療体制や、小さな規模・少数スタッフで構成された療養環境、緩和ケア研修の参加にて得られた専門知識を持ったスタッフが緩和ケアを提供していることによって、当院はより良い最期を過ごす場所として認められていると考えます。

今後より一層、医療の質を維持していくとともに、スタッフのスキルアップ、療養環境の整備、人生における希望や楽しみに寄り添えるようなケアを継続してクリニックの良さが伝わる緩和ケアに努めていこうと考えています。



真誠会ターシャの庭は、季節ごとに花が咲き、患者さん、ご利用者の癒しの空間になっています。



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

白砂青松育つ隊

もう 5 年前のことですが、米子近辺が大晦日に突然の大雪に見舞われ、その雪の重みで弓ヶ浜の松並木が多大な被害を受けました。その時は国道 431 号線を通るたびに、折れて無残な姿をさらしていた松並木を見るたびに「自分にも何かできないだろうか?」と、ずっと思っていました。鳥取県が弓ヶ浜半島の松並木の再生を、民間のボランティア団体をお願いしようというプログラムを進めて、我々も「ホスピタウン」として名乗りを挙げました。その後 3 年間に亘って松の苗を植林して、その数が 500 本近くになりました。

そして今回は 8 月 21 日のまだ残暑厳しい中、総勢 80 名もの人に参加してもらって、草刈などの清掃活動を行って頂きました。3 年前にはまだ 20cm ほどのちびっ



こ苗木だったのが、今では大きいのは背丈ほどにもなっていて、しっかりと育ってくれていて、頼もしく思えました。松は最初はつる草がからんで、草の中に埋もれていましたが、草刈をしたおかげで、スッキリとなって、また遅く育ってくれそうです。竹下副隊長をはじめ、真誠会の方々ご協力ありがとうございました。20 年後くらいには立派に育った松並木が見れるかなとその時を楽しみにしています。



いえはら歯科
院長 家原 猛

2016 夏

今年から新たに国民の祝日として「山の日」が制定された。丁度大山隠岐国立公園は指定 80 周年を迎えた。8 月 11 日、当地でも米子市のコンベンションセンターで祝日「山の日」制定の記念式典やアウトドア専門家やグレートトラバース 1・2、日本百名山・二百名山人力完全踏破のプロアドベンチャーレーサー田中陽希氏他を招いての講演会・フォーラムなどの行事が開催された。また、翌 12 日には大山博労座周辺を会場に山ガールサミット、トレッキング、自然と文化に触れる散策などいろいろの催し物が開催された。今年大山山麓地域は、地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市で日本遺産の認定を受けた。そして、平成 30 年には伯耆国「大山開山 1300 年祭」が予定されている。着々と準備が進んでいるようである。

近年私は大山周辺の山を楽しむ機会が増えている。まだまだ初心者の域で何も身に付いていない状態だが、今回いろいろの方の話を伺うことができ、認識を新たにすることも多くあった。大山は 1960 年代以降、登山者が大幅に増加。植生は踏みつけられ、山頂は裸地化した。保水力を失った山肌は、雨水の浸食溝を刻んだ。そんな山頂を救ったのが「大山の頂上を保護する会」の呼び掛けた「一木一石運動」だった。石をリュックに入れて登ってもらい、その石で浸食溝を埋めた。ダイセンキャラボクなどの苗を運び植栽した。土砂の流出をコモをかぶせて防いだ。山頂の厳しい環境で、試行錯誤の連続だったらしい。

心ある方々の地道な活動が緑豊かな大山を支えている。年月を経てその運動の価値を知る。この山の日、「山に親しみ機会を得て、山の恩恵に感謝」という山の日趣旨に、山を大切にしてきた多くの先人達の思いを加えて、また山に登りたい、と思った。

復興への願い、天まで届きますように 「千枚七夕」「仙台七夕」

今年も恒例行事となった「千枚七夕」「仙台七夕」を行いました。施設のご利用者、入院患者さん、職員、そして、米子市河崎保育園の園児たちと一緒に笹に短冊を飾りました。七夕の季節を感じていただくとともに、東日本大震災の復興を願って「千枚七夕」を3年前から行っています。今年は、熊本地震で被災した人たちを応援する願いが書かれた短冊も多くあり、飾りつけを行いました。願い事が天まで届きますように!と一枚、一枚の短冊を手に取り大切に飾りました。

約6mの竹に1000枚以上の短冊を飾り、真誠会セントラルクリニックの吹き抜けのホールにお盆まで約1ヶ月間、設置し飾られました。

千枚七夕の前で
「たなばたさま♪」を
園児らが元気よく
歌ってくれました



米子ホスピタウン

から



熊本ホスピタウン
(にしくまもと病院)

へ寄せ書きを贈る

平成28年4月に熊本県で発生した2度の震度7の地震は、熊本県だけでなく九州全土に大きな被害をもたらしました。真誠会と姉妹提携している「熊本ホスピタウン」にしくまもと病院(熊本市南区富合町)は、地震発生直後に、林病院長のリーダーシップのもと多くの職員が病院に集まり、夜間の避難所として病院を開放し地域の高齢者やお子様連れの方を率先して受入れられました。

真誠会の職員から、寄せ書きを「にしくまもと病院」へ贈りました。

熊本県の皆様、九州で被害に遭われた全ての方々が復興に向けて力強く歩んで行かれることを願っています。

同じ、寄せ書きの複写を額に入れて、米子ホスピタウンの玄関に飾っています。



第36回 全日本トライアスロン皆生大会

日本トライアスロン発祥の地である
皆生大会で、鳥取県では1位の好成績!

平成28年7月17日、「第36回全日本トライアスロン皆生大会」が開催され、

1105人(個人の部922人、リレーの部61組183人)が出場しました。スイム3キロ、バイク140キロ、ラン42・195キロの鉄人レースです。

真誠会職員、介護老人福祉施設ピースポート職員(介護支援専門員)、『潮晋平』が**出場し、18位(鳥取県1位)**でフィニッシュ!!
すばらしい快挙でした!!



※総合タイム:9時間20分34秒
(SWIM:45分54秒)(BIKE:4時間44分45秒)
(RUN:3時間49分55秒)

私たち真誠会も日々努力し、福祉業界での鉄人を目指し尽力していきます!

第22回米子ホスピタウン夏祭り 夏の思い出

平成 28 年 8 月 6 日、第 22 回米子ホスピタウン夏祭りが開催されました。

米子ホスピタウンの施設内を職員が神輿を担ぎ、ご利用者、入院患者さんから「わっしょい!わっしょい!」と声かけに元気をもらい、祭りのはじまり、はじまり~!

地域ステージ発表では、山陰少年少女合唱団リトルフェニックスさんに華麗な歌声を、御建自治会より盆踊り・フラダンス・花笠踊りを披露していただき、会場を盛り上げていただきました。

施設ご利用者の方々も、お神輿や踊りを観て夏の風物詩を感じていただきながら、アイスクリームやカキ氷を美味しく召し上がられました。来年は今年を越えるような夏祭りを計画していきます。



男前チームで神輿を担ぐぞ!
ワッショイ!ワッショイ!



リトルフェニックスさんの歌声に
皆さんうっとり♡



掘り出し物はあるかな?
バザーでお買い物

第17回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り 太鼓の音響く夏祭り!

8月20日、弓浜ホスピタウンにて地域交流夏祭りを開催しました。ご入所者・ご利用者をはじめ地域の皆様や子どもたちにも多くの参加を頂き、笑顔溢れる賑やかな時間となりました。

和田荒神子ども太鼓の皆様による勇壮な太鼓の調べでお祭りが始まり、神輿が館内を練り歩き、舞台では和田ハーモニカ同好会の皆様や米子市議会議員の門脇様とともに懐かしの歌を合唱し、寺子屋サロンの皆様には花笠音頭で花を添えていただきました。その他、屋台やバザーの出店もあり、かき氷やたこ焼きを食べながらヨーヨー釣りなど、お越しいただいた皆様にとって楽しい夏の思い出になったのではないかと思います。

ぜひ会場の皆さんも
一緒に!



歌:「幸せなら手をたたこう」
米子市議会議員 門脇一男様



花笠音頭で会場がバツと
明るくなりました

和田ハーモニカ同好会の
皆様の演奏です



理事長写真

ファインダーを通して観る花火

写真愛好家にとって花火は一つの大きな分野です。

花火の撮影にはほとんどマニュアルの高度な撮影技術を必要とするからです。

また実際にカメラを写すとき、ファインダーを通して花火を見ていると、

花火の真ん中に頭を突っ込んでいると錯覚するほど綺麗な花火を見ることが出来ます。